

## 令和5年度 久留米市文化財収蔵資料審議会 会議録

### 開催要領

1. 開催日時：令和6年3月8日（金） 14時00分～15時10分
2. 会場：えーるピア久留米 205学習室
3. 出席委員：大津忠彦委員、吉留優子委員、吉永陽三委員、木土博成委員、  
吉田洋一委員、植野かおり委員、國生知子委員、後藤純子委員
4. 事務局：文化財保護課 井上課長、丸林課長補佐、白木課長補佐、塚本主査、  
穴井主査、荻野、村上、大塚
5. 傍聴者：なし

### 議事次第

1. 開会
2. 委嘱について
3. 課長挨拶
4. 会長・副会長の選任について
5. 議題
  - (1) 文化財収蔵資料の購入について
6. 報告
  - (1) 令和4・5年度の資料収集について
  - (2) 令和4・5年度の資料補修について
  - (3) 令和6年度以降の資料補修について
  - (4) 資料の活用状況について
  - (5) 令和5年7月10日豪雨被害による田主丸古文書収蔵庫の対応について
7. その他
8. 閉会

### 会議録

1. 開会
2. 委嘱について
  - 委嘱状交付 ○新任委員である木土委員の紹介と挨拶
3. 課長挨拶
4. 会長・副会長の選任について

○事務局案により、会長に大津委員、副会長に吉留委員を選任

○会長および副会長挨拶

## 5. 議題

### (1) 文化財収蔵資料の購入について

○事務局より説明

○質疑

(委 員) 購入予定の写真には、写真が発見された際の由来が記載された文書が付随するとのことだが、どういったものか。また、ポスターの大きさが分かれば教えてほしい。

(事務局) 6枚綴りの書付が付随しており、表紙には「久留米藩軍艦千歳丸艦暦及写真発見の由来略記草稿、昭和十二年十一月二日、市観光協会広重氏宛写真ニ保存し贈る」と記されている。書付の各項に多数の記載があるため、資料調査の際に判読しようとしたが鉛筆書きで薄くその場での判読が難しかった。だが、久留米藩が海軍に力を注いでいたことなど、久留米市史に記載されている内容に近いようだった。資料入手後にもっと具体的な内容を調査したいと考えている。ポスターのサイズは、上段資料が91 cm×61 cm、下段資料が76 cm×56 cmである。

(委 員) ポスターの発行年代は大正年間となっているが年代の詳細は分からないのか。

(事務局) 年代の具体的な絞り込みはまだできていない。

(委 員) 千歳丸の写真のサイズは分かるか。

(事務局) 大きさは12 cm×16 cmである。

(委 員) ポスターは類似品をすでに収集しているか。

(事務局) 久留米市の収蔵資料には類似品がないため購入したいと考えている。

(委 員) 昨年、久留米市美術館で「生誕140年 ふたつの旅 青木繁×坂本繁二郎」展を開催した時期あたりに、新聞社が千歳丸に関する記事を掲載していた。そこに掲載されていた写真と同じものになるのか。

(事務局) 写真は複数枚出回っており、その中のひとつであろうと推測される。今回の資料が唯一の資料というわけではない。

(委 員) 今回この資料購入にあたり、市から意見を求められた。現物は拝見していないが、受けた詳細説明や本日の資料を拝見しての感想を述べる。千歳丸は幕末に久留米藩が購入した船であり、この時期に購入した船の中で最大のもの。久留米市史によると詳細がよく残っている資料とされている。すでによく知られたカットではあり、現像の時期は不明であるが、内容として非常に重要と考える。久留米緋のポスター2点については、久留米緋の同業組合の記載があるが、この同業組合は明治22年にできて昭和9年に解散、発展的に組織名を変えており、その組合が発行したポスターと思われる。描かれた女性が着ているレース柄の襦袢や、下の画像の女性の髪形が短くカットしたうえでカールしている様子などから、制作年は大正から昭和9年に近い後半段階と考えられる。緋の文様が反物ひとつひとつ違えてあり特徴がよく表現されており、販売証や値札なども詳細に描かれていて、流通の過程もわかる面白いものだと感じる。発行時期を鑑みると久留米緋の最盛期頃にあたるため、その頃の販売促進用のポスターと

考えると、資料的価値は高いと考える。

(委員) 資料の価格は適切なのか。

(事務局) この資料が掲載されていた目録の他の資料の金額と比較すると、同程度の価格である。一般的な流通価格は不明だが、おそらく平均的だと考える。意見書を踏まえ、久留米市として残すべき資料ということを見ると妥当な金額と考えている。

(委員) 久留米絣のポスターはすでに所蔵しているのか。今回が初めてなのか。

(事務局) 久留米絣のポスターとしては今回が初めてとなる。絣の商品が掲載されたものなどは所蔵している。

(委員) 今でこそ久留米絣は高級品のイメージだが、当時は、デパートで購入する反物と、昔祖母の家で目にした半纏などの庶民的なものとは別格であり、様々なランクがあったということか。

(事務局) 久留米絣は明治時代の段階から機械化が進んでおり機械織りの手頃な価格の製品も作られてきた。それらが多く制作され流通することで成立してきた経緯がある。同時に、創始者と言われる井上伝は伝統的な技術を非常に大事にしており、全て手作業で作るという技術を残していくことを積極的に行ってきた。昭和32年にその技が重要無形文化財に指定されるが、現在に至るまで、久留米絣の最上級品は、手織りし天然藍で染めて手作業で制作したものと位置づけながら、裾野を機械織りで広げてきたというところがある。大正から戦前頃の文庫絣には三越百貨店の商標があるものが多数存在し、久留米絣がお洒落着として都市部の百貨店で盛んに販売されていたことがわかる。

(委員) ポスターにキャッチコピーがついており、「洗ってよくなる」「衣服の経済実用第一」とある。友禅のような高級品の位置づけと異なるが、世間一般で言われる野良仕事用ではなく、柄を吟味して選ぶような反物であるというメッセージ性が垣間見える。そういった点から非常に面白い。

(委員) ポスターを購入した後の保存方法はどのように考えているか。専用のバインダー等があるのか。

(事務局) 専用のバインダー等はないため、ポスターのサイズに合わせた中性紙の梱包材を作成し、丸めずに平らな状態で保管予定である。

○審議内容について、委員全員挙手のうえ承認。市への答申については会長に一任。

## 6. 報告

(1) 令和4・5年度の資料収集について

(2) 令和4・5年度の資料補修について

(3) 令和6年度以降の資料補修について

○事務局より説明

○質疑

(委員) 個人宅の収蔵資料について第○次と分けて収蔵されているようだが、それは寄

贈者の希望で分けて行っているのか。

(事務局) 同じ人物から複数回寄贈の相談がある際には、その都度受け入れている。この際、第〇次として受け入れている。こちらで依頼し分割して受け入れているわけではない。

(委員) そういった、同じ人物からの複数回に渡る寄贈相談はまだ続きそうなのか。

(事務局) 市が保存のため資料収集していることを認知いただいているので、寄贈できそうな資料があれば、都度お問い合わせをいただいている状況である。

#### (4) 資料の活用状況について

○事務局より説明

○質疑

(委員) 新型コロナウイルスの影響があり、久留米市美術館も入館者に影響があったがその頃から比べて入館者数が増えたなどの変化はあったか。

(事務局) 図書館と併設している施設であるため一概に展示のみの入館者としての統計が取りづらい現状がある。コロナ禍よりは入館者が増えてきている印象だが、コロナ禍以前に回復しきったかどうかまで確認ができていない。だが、「むかしのくらし展」での小学校の受け入れが再開したこともあり、来館者数はここ数年に比べ増えている。そういった点をふまえると、コロナ禍よりは来場者は増えていると考える。

#### (5) 令和5年7月10日豪雨被害による田主丸古文書収蔵庫の対応について

○事務局より説明

○質疑

(委員) 被害状況は、写真を見る限り、泥だらけというより水損がメインと考えてよいのか。また、全体の被災資料の現状はどうなっているのか。

(事務局) 水損した資料があるが、資料をラックに配架していたことから一部の資料に限られる。

(委員) 今後も作業の継続が必要で大変だろうが、カビ対策なども合わせて気をつけて進めていっていただきたい。

(事務局) 来年度の早い段階で殺カビの燻蒸を予定している。

(委員) 資料の水損被害は少なくとも収蔵庫内の環境が激変してストレスがかかっているだろうから、そのあたりの対処もしていただいているところかと思う。

## 7. その他

(委員) 「資料の活用状況について」の表の中に、展示の開催日数の表記があると来場者との関係が比較しやすい。

(委員) 同じく、その表の中に展示点数の表記もあると展示の規模感がわかるのでよいと思う。

- (委員) 来年度の企画はもう既に決まっているのか。
- (事務局) 予算組を行う時期に合わせ展示企画を練っている。
- (委員) 事務局のみで展示を開催しているのか。また、どういった展示を企画しているのか。
- (事務局) 基本的には事務局である文化財保護課の職員で展示を担っている。来年度の企画としては、六ツ門図書館展示コーナーでは、例年行っている「むかしのくらし展」と、所蔵している久留米市内の昭和戦前期までの絵葉書を中心に紹介する展示を企画している。また、継続して新収蔵資料コーナーでの展示も行う。加えて、久留米市美術館と連携しながら、公益財団法人久留米絃技術保存会との共催で、久留米絃をテーマとした展示を企画している。
- (委員) 少人数で運営が大変な中、注文をつけて申し訳ないが、展示は見る側の立場に立って行うのが大事である。市民がどんなものが求めているのかを考え、意見を吸い上げることが大切である。そのためには情報発信も大事。久留米市は大きい自治体だが博物館をもたないというレアケースである。もっと様々なところで展示してみてもどうか。市の中心やシティプラザなどは活用できないか。
- (事務局) 新たに寄贈いただいた資料を紹介する「新収蔵資料コーナー」での展示をはじめ、今市民に何を求められているか、どういったテーマがよいかを可能な限り検討している。シティプラザでは何度か展示を行っているが、環境的に資料展示には向かない現状がある。しかし、活用できる方法がないか検討していく。
- (委員) JR東日本では、外的影響の少ない考古資料などを駅などで展示している。そういったことも一案である。また、様々な媒体があるので、デジタル媒体の活用等も検討するとよいのではないか。
- (事務局) 現在、市公式の YouTube やホームページ上に展示などの情報を掲載している。また、来年度企画している展示でも活用を予定している。
- (委員) 「資料の活用状況について」の部分に、デジタル媒体での情報発信・掲示についての実績なども反映されるとよいと思う。
- (委員) ミニテーマ展示を行っているのはとてもよいと思った。今後も頑張っていたきたい。

## 8. 閉会

\* 審議会終了後、文化財収蔵館にて、会議内で報告を行った収蔵資料（令和4・5年度分）の見学を行った。